

授 業 科 目 名	社会的養護内容	教 員 名	高橋 博	免許・資格 との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授 業 形 態	演習	担当形態	単独	卒業要件	保育士	必修
科 目 番 号	FOI401	配当年次	4年次前期		こども音楽療育士	
単 位 数	1単位			小幼コース	選択	
科 目						
施 行 規 則 に 定める科目区分 又は事項等						
科 目	告示別表第1による教科目					
系 列	保育の内容・方法の理解					
一 般 目 標	<p>子どもの養護に携わる保育士は、子どもの権利を擁護するという視点が必須となる。この視点から、社会的養護の実施体系をふまえ、養護現場で実際に行われる支援についての内容と事例を学び、社会的養護を担う専門職としての実践力の獲得を目指す。</p> <p>(1) 社会的養護の内容 社会的養護の具体的内容について理解する。</p> <p>(2) 社会的養護の実践 社会的養護の実践を体験的に理解する。</p>					
到 達 目 標	<p>(1) 社会的養護の内容</p> <p>1) 施設養護の内容について理解する。</p> <p>2) 家庭養護の内容について理解する。</p> <p>(2) 社会的養護の実践</p> <p>1) 施設養護実践について理解する。</p> <p>2) 家庭養護実践について理解する。</p>					
授 業 の 概 要	<p>社会的養護における子どもの権利擁護と保育士等の倫理及び責務をふまえ、施設養護、里親制度等の社会的養護の実施体系を学ぶ。また、養護現場における日常生活支援、治療的支援、自立支援に焦点をあて、その内容と方法を理解する。事例の分析、考察を深め、社会的養護にかかわる専門的技術の資質を獲得する。</p> <p>アクティブラーニングとして、振り返り、グループディスカッション、グループレポート、個人レポートなどを取入れる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	<p>第1回：講義概要の説明（本講義の主旨および講義計画について） ワークショップ（「社会的養護とは」、「子どもの最善の利益とは」）（目標(1)-1, 2)）</p> <p>第2回：施設養護と家庭養護の現状と課題（目標(1)-1, 2） （1）子どもの養護と保育士 （今日の養護問題、児童福祉施設及び家庭養護の現況と課題）</p> <p>第3回：子どもの権利について考える（目標(1)-1, 2)） ワークショップ（「子どもの権利とは」、「子どもの権利侵害を考える」）（目標(1)-1, 2)</p> <p>第4回：施設養護の内容Ⅰ（目標(1)-1） （2）施設養護のプロセスの理解 （施設養護のプロセスをとらえる視点、施設養護のプロセスの展開内容と留意点）</p> <p>第5回：施設養護の内容Ⅱ（目標(1)-1)） （3）保育士の基本的な社会的養護支援</p>					

	<p>(日常生活支援の内容、生活プログラムの作成)</p> <p>第6回：施設養護の事例Ⅰ (目標(2)-1)  (4) 施設養護におけるこころの支援</p> <p>第7回：施設養護の事例Ⅱ (目標(2)-1)  (5) 親子関係の支援</p> <p>第8回：施設養護の事例Ⅲ (目標(2)-1)  (6) 地域・学校との関係づくり・整備の支援</p> <p>第9回：施設養護の事例Ⅳ (目標(1)-1)  (7) 自己実現・自立への支援</p> <p>第10回：施設養護の内容Ⅲ (目標(1)-1)  (8) 児童福祉施設の運営管理</p> <p>第11回：社会的養護にかかわる保育士の役割 (目標(1)-2)  (9) 児童福祉施設における保育士の資質と倫理</p> <p>第12回：家庭養護の内容Ⅰ (目標(1)-2)  (里親支援の必要性、里親に向けた支援)</p> <p>第13回：家庭養護の事例Ⅰ (目標(2)-2)  (家庭養育が望めない子どもが里親委託に至るまでのプロセスを通じて子どもや保護者への支援の実際や、委託後の里親への支援について考える)</p> <p>第14回：施設養護と家庭養護事例のふりかえりとまとめ (目標(2)-1, 2))  社会的養護の実際の事例から学んだ実践の到達点や成果と課題をまとめ、社会的養護内容の全体理解を深める。</p> <p>第15回：まとめ  期末試験</p>
学生に対する評価	<p>レポート提出20%、発表20%、期末試験60%</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントを記載して返却する。</li> <li>・授業にて口頭で行う。</li> <li>・答案例を配布する。</li> </ul>
授業外学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回講義の最後に、次回の講義内容のテキスト箇所を伝えるので、入念に予習しておくこと。また、不明な点等は調べておくこと。</li> <li>・講義を受けて、レポート課題があるときは、必ず次回の授業の前日までにメールで提出すること。</li> <li>・講義で使った資料やノートのパイル管理を徹底すること。</li> <li>・講義で使用したテキスト箇所を必ず復習しておくこと。</li> <li>・事後学習として、講義で学んだことはカラーペン等でマークし、さらに板書等を書きこみ、要点等を整理して一冊のノートにまとめること。また、毎週土日に必ず振り返りを行うこと。</li> </ul>
テキスト	辰巳隆・岡本眞幸 編『新版 保育士をめざす人の社会的養護Ⅱ』 みらい 2020年
参考書・参考資料等	『幼稚園教育要領 (平成29年告示)』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年告示)』 『保育所保育指針 (平成29年告示)』
担当者からのメッセージ	社会的養護を履修していることが望ましい。 自学自習、ディスカッション、発表など積極的なアクティブラーニングに取り組むこと。
オフィスアワー	メールで対応する。